

「『放課』と一緒に方言ですよ」。一宮市の多くの小中学校が体育館を「屋運」と呼ぶ理由を調べる中、愛知教育大副学長の中田敏夫さん(65)に言われた。東京出身の私にとって、この「放課」もなかなかなじめない言葉。「放課後とは違うの？」との疑問がいつも浮かんでしまうからだ。

放課は県内で学校の授業と授業の合間を指す。授業後の時間は全国的にも「放課後」と呼ぶが、授業間は「休み時間」だと思っ。なぜこの地域だけこう呼ぶのか。調

放 課



べると、明治時代の規則に準じ、昔は全国的に放課を使ったそう。屋運同様、変えずに使い続けた「オンリーワン」だった。

「愛知には、方言のような学校用語が結構ある」と中田さん。模造紙を「B紙」と言うのも独特らしい。

着任から二年。やっと「放課」の疑問も解けた。今後、学校にアポイントを取る際は「放課に合わせて行きますね」と気兼ねなく言えそうだ。

(植木創太)